



**がんばれ高田 負けるな高田
できる できる できる!**

【校訓】

自主・協力・創造

文責 校長 大串 久隆

高田中学校平和祈念集会、「平和な世界、核無き世界を求めて」

2023年8月9日が台風接近で臨時休業となったため、本校では、8月25日の実力テスト後に、平和祈念集会を行いました。各学年が、平和学習で学んだことを発表するとともに、それらの学びをさらに深める祈念集会になりました。

1年生「二重被爆のお話」を聞いて 1年生代表 村井 友香

私たち1年生は、「長崎の原爆」を中心に二重被爆について、原田さんの講話を聴きました。

小学生の頃から今まで、原爆の恐ろしさや平和の尊さについて学んできました。しかし、「二重被爆」については、今回初めて知りました。山口彊さんは、広島と長崎の両方で被爆し、2度の直接被爆が公式に初めて認定された方です。原田さんの講話から山口さんの「もう二度と原爆の被害を起こさない」という強い思い、そして被爆者のご家族の「原爆の被害などを後世に伝え、被爆者の思いを世界中に伝えたい」という思いをより深く受け止めることができました。

原田さんはおっしゃっていました。「二度あることは3度ある」ではいけない。長崎を最後の被爆地にしなければならないのだと。しかし、核兵器をなくすだけでは戦争はなりません。昔起こった戦争では、普通の農具などを使って戦争が行われたこともあるそうです。小さなけんかからでも世界を巻き込んだ争いに発展することもあるのです。

私たちにもたくさんできることがあると、村石さんの質問から気づくこともできました。例えば、過去から目をそらさずに、日本・世界の歴史にも目を向けること。日々の生活の中での言動に気をつけながら過ごすことも心がけていきたいと思います。



調べた長崎原爆ことを3年生に伝える1年実行委員↑

2年生「佐世保空襲」についての講話を聞いて 2年生代表 森永 珠緒

私たち2年生は、「佐世保空襲」について、木原さんの講話を聴きました。

私はこれまで、長崎というと原子爆弾のイメージが強く、空襲についてはあまりよく知りませんでした。しかし、今回の講話を聴いて、原爆だけでなく、空襲や戦争もどれだけおそろしいものなのかが改めてよくわかりました。空襲にあった佐世保の街は、東西にできた火災の壁に塞がれ、大火災となり、多くの死者を出しました。須佐町一帯も大火災にあい、近くのトンネルに多くの人々が避難してきたそうです。しかし、しだいに火の勢いは強くなり、避難した人々の多くは熱風により焼死されました。この空襲により、全部で1,230名もの方が亡くなったのです。

また、佐世保だけでなく、東京や新潟、浜松など全国各地で空襲が起きて、たくさんの方が亡くなったと聞き、とても驚きました。

そして、もう一つ、印象に残ったのがマリアナ諸島での話です。テニアン島では、召集された日本人の子どもとアメリカ軍の人たちで勉強や運動をしていたそうです。アメリカ軍は日本人と遊んで、日本に爆弾を落とすしに行き、テニアン島でまた子どもと遊んで、というのを繰り返していたというのが印象に残りました。テニアン島と一緒に遊んだ子どもたちと同じ日本人に爆弾を落とすことは、アメリカ軍の人たちもとても苦しかったと思います。

戦争はだれの利益にもならないし、みんなにとって苦しいことなのだと感じました。こんな恐ろしい戦争がこれからも続かないように、身近なことから考えながら行動していきたいです。

講話で学んだ東京大空襲のことを1年生に伝える2年実行委員↑

3年生「沖縄戦」についての学びを通して 3年生代表 森 圭三

私たち3年生は、沖縄戦をテーマとしたDVD「その時、歴史が動いたさとうきび畑の村の戦争」を視聴しました。

今まで「沖縄戦」といえば、「日本で唯一起こった陸上戦」「民間人を巻き込んだ激しい戦闘」というイメージでした。しかし、今回のDVDを視聴し、実際に沖縄戦を体験した方々の話を聴くことができました。米軍の船を見るとぞっとした、ガマと呼ばれる洞窟に隠れようにも人が多く、そこに爆弾を投げ込まれた、アメリカ軍の捕虜にされるぐらいならと自決した人がいたことなど。

特に、沖縄県南部の那覇の北東約10kmほどの位置にある西原村では、住民の47%にあたる5,106名もの方が亡くなったと聞き、どれだけ戦闘が激しかったのかが改めてわかりました。

現地で徴兵された人々も本来は、17歳から45歳までであるのに、14歳や70歳の対象年齢外の方がいたこと。「斬り込み」という死を覚悟した夜戦が行われていたことなどから日本軍が米軍に対して民間人をどれだけ巻き込んだのかがよくわかりました。疎開するにしても条件が悪く、疎開できずに戦闘に巻き込まれて亡くなった人など多くの命が奪われた沖縄戦。他にも、原爆や特攻などで多くの方が亡くなったのです。

このようなことを二度と起こさないためにも、今の世界の状況を見つめ、自分にできることを考えて行動していきたい。そう強く思いました。

自分たちで調べた沖縄戦のことを1年生に伝える3年実行委員↑



令和5年度 高田中学校平和宣言

広島と長崎に原子爆弾が投下されてから今年で78年になりました。私たちは、これまで平和についてさまざまな学習を行いました。戦争の悲惨さ、核兵器の恐ろしさ、人々の幸せを奪うことなど、戦争は私たちにとって、何一つ利益にならないことに気づきました。

ただ、78年の歳月が過ぎ、私たちは、平和の大切さをどのように伝えていけばよいのでしょうか。今の世界を見ると、ウクライナとロシアなど、各地で戦争や紛争が起きている場所もあります。そして、その影響で苦しんでいる人々が多くいます。このいがみ合う状況を解決するために、私たちができることは何か、常に考えることが重要です。それは、決して遠い世界の出来事ではありません。地球に住む一員として、私たちはこの課題に向き合い、解決する責任があります。

戦後78年。これまでの平和は、過去の多くの方々の犠牲や苦労があって成り立っています。今、私たちには、平和な世の中を未来の世代に引き継ぐために、過去を正しく知り、そして未来に生かす努力が求められています。この長与の地から世界に向け、ただいまから高田中学校平和宣言を発表します。

- 一. 過去の戦争について学びを深め、向き合うことで次の世代へ今の平和をつないでいきます。
- 一. いかなる暴力や圧力も許さず、正義のために行動します。
- 一. 世の中や周囲の動きに関心を持ち、常に全体のことを考えていきます。
- 一. 一人一人が相手の立場に立ち、この学校からいじめや差別を起こしません。
- 一. 考え方や違いを理解し、お互いを認め合い、高め合います。

令和5年8月9日

長与町立高田中学校 平和実行委員会

令和5年 高田中学校 平和集会

校長 大串久隆

今年、長崎に「原子爆弾」が投下されて78年目を迎えました。戦争で命を落とされた多くの人々や、悲しみや苦しみの中でも戦後の復興を支え、これまで日本の平和を築いてこられた多くの方々への感謝の気持ちを持って、改めて平和の大切さを噛みしめてほしいと思っています。

さて、今年度の平和学習で、1年生は、広島と長崎の2箇所でも二重被爆を受けた山口彊（つとむ）さんの経験について、その孫である原田小鈴さんに講話をしていただきました。核兵器の恐ろしさとともに、それを、経験者ではないお孫さんに話をさせていただくことで、戦争を直接知らない私たちにできることや大切にしていかなければならないことを沢山学んだと思います。

2年生は、「佐世保空襲を語り継ぐ会」代表の木原秀夫さんの講話を聞きました。日本各地で空襲があり、その中でも特に東京大空襲で多くの命が奪われたことを学びました。戦争が続く中で、爆撃の標的が工場から、住宅に変わり、多くの人の命を奪うことが、戦闘の目的になっていったことを知り、戦争の惨さ、恐ろしさを感じました。

1941年12月から始まった太平洋戦争は、様々な場所で戦闘が行われ、4年後の1945年には、日本本土への攻撃を多く受けるようになりました。まさにその悲惨な事例が、東京大空襲と、3年生が学習した沖縄戦です。沖縄戦は太平洋戦争において唯一、日本本土で行われた地上戦と言われます。日本軍にとって、この地上戦は、できるだけ米軍の足止めを行い、時間稼ぎをする戦いであり、それが、沖縄の住民にとっては、悲劇となる戦闘となりました。圧倒的な米軍の強さの前に、住民は為す術がなかった上に、投降しようとする日本軍に殺されたり、自害せよと言われて、自ら命を絶つ人も多数いたのです。

3年生は、沖縄戦について真剣に学び、映像を食い入るように見つめていました。

私たちは、戦争がなぜ起こったのか、どうすれば戦争をせずに済んだのかなど、過去のことを正確に学び、これからの人生に活かしていかなければなりません。

戦争は、人の考えや価値観を狂わせ、何も見えなくしてしまいます。そして、一度始まってしまうと、やめることも止めることもできなくなるのです。日本では、戦争後半に敗戦濃厚となっていたにもかかわらず、「戦争をやめる」という選択をすることができませんでした。1945年に先ほど話した沖縄戦があり、東京大空襲があっても戦争をやめることができませんでした。そしてその年の8月に広島と長崎に原子爆弾が使われてしまいました。

日本は、唯一の被爆国であり、太平洋戦争の大いなる反省のもとに、恒久平和を目指すことを憲法に定めています。

第9条「日本国民は、正義と秩序を基調とする国際平和を誠実に希求し、国権の発動たる戦争と、武力による威嚇又は武力の行使は、国際紛争を解決する手段としては、永久にこれを放棄する。」

第2次世界大戦で、日本は多大な被害を他国に与えてしまいました。そして、世界で唯一、核兵器の被害に遭いました。だからこそ、日本は「戦争はダメだ」「戦争を始めてはいけない」と伝え続けなくてはいけないのではないのでしょうか。核兵器の恐ろしさを、身をもって知っている日本人だからこそ、説得できる言葉があるのではないのでしょうか。

平和の大切さ、平和の尊さを、世界の様々な国々の人々と共有し、ともに手を携えて行くために、私たちは、危険を予知し、戦闘を未然に防ぐ知力と能力、そして、対話力を身に付けていかなければなりません。戦争を放棄する力、戦争を回避する力をみんなで作って、発信していきましょう。

がんばれ高田 負けるな高田 あなたなら あなたたちなら できる できる できる